

英語を通して「気づき」を高める小学生のための異文化理解レッスン

千 田 誠 二

概 要

2002年度から公立小学校で「総合的な学習の時間」が設置された。これを受けて、すでに実践を始めていたところも含め、多くの小学校で国際理解教育の一環としての英語活動が行われている。小学校での英語活動は子どもの世界に対する視野を広げる点で期待されているが、同時に問題点も挙げられている。一番の大きな問題は、カリキュラムの内容等が明確に示されていないことが現場の教師の戸惑いを生んでいることである。結果として、一過性のゲームを集めたカリキュラムをこなしている例が多い。「国際理解教育としての英語活動」という原点に戻った内容の見直しが求められている。

今回、育英短期大学公開講座において、小学生を対象とした「異文化理解レッスン」を行った。上記の現状を踏まえ、子どもが異文化と自文化のちがいに「気づく」機会を与えることを目的とした。英語を通して、普段当たり前と思っている生活習慣を異なる角度から見直すことで、新鮮な気づきを与えるレッスンが中心である。本論文では、気づきを深めるトピックの選択、思考を促す英語の話し方を中心に扱い、実践内容と児童の反応について考察していく。

1. 「総合的な学習の時間」のねらいと英語活動

これまで学校教育は、長い間「知識詰め込み」型の「縦断的な」カリキュラムによって行われてきた。しかしながら、社会の変化に伴って教育観も画一的・統一的価値観から個人の見方・考え方重視へと変わってきた。このような新しい教育観のもとでは、知識と知識を結び日常生活に活かす力の育成が求められている。新学習指導要領の「総合的な学習の時間」のねらいにも示されているように、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる」ために、「横断的・総合的な」授業内容が求められていることがうかがえる。

英語教育を例にとると、これまでの学力観に立てば、「Turn right」、「Turn left」といった道案内の表現を身につけ、実践で使えるように反復練習をすることが中心であった。しかし、新しい学

力観に立てば視点は変わってくる。「ニューヨークは東京よりも道路が碁盤目上に区画されていてわかりやすい」といった異文化的な気づきの方が重要視されてくる。後者の場合、前者よりも問題意識を伴うからである。子どもが外国人に道を尋ねられたとしよう。前者のように習った子どもは、英語を思い出すのに悪戦苦闘するであろう。その間に外国人は礼を言って去ってしまうかもしれない。後者のように習った子どもは、東京に慣れていない外国人には初めから地図を書いてあげた方がよいと機転を利かせて紙と鉛筆をおもむろに取り出すかもしれない。「総合的な学習の時間」で育てる力は、このように柔軟性に富み、状況にあった判断のできるいわば「生きる力」に相当するものである。

上記のようなねらいが現場ではどの程度反映されているだろうか。実際に小学校での英語教育活動を見てみると、歌やゲーム中心の一過性の活動が多いのが現状である。「英語に慣れ親しむ」とい

う点においては、確かに歌やゲームは効果的であろう。しかし、最近では「楽しい」だけのカリキュラムの限界も指摘されはじめている（幸田，2002）。子どもたち自身の見方も変化しているようだ。特に中学年から高学年にかけては、ある一定の期間を越えるとゲーム中心の活動に飽きてくる傾向が見られる。学年が上がるにつれて、ゲーム活動を「楽しいが役に立たない」と捉えているという研究結果も報告されている（下，2001）。問題はゲームそのものにあるのではなく、使い方であろう。研究結果からわかることは、子どもたちも英語を使ってコミュニケーションをしたいということである。英語の世界に触れるのはとりもなおさず異文化との触れ合いである。そこには新鮮な驚きや気づきが必ず伴うはずである。自文化への気づきにつながるという点でも大切にしたい点である。

長野県御布施町小学校では、英語を聞かせながら「気づき」を与える授業を実践している。ハーブ草が子どもたちに配られ、一人一人その匂いをかいでいく。ハーブティーを飲むALTと担任教師の英語の対話を聞いている。ALTはアメリカの自分の故郷ではハーブを生活の中に自然に取り入れていることを話す。“You’re a young guy. It’s not cool. A little strange.”と男性がハーブを愛用する文化を日本人の担任教師がわざとつぶかしのげに冷やかす。子どもたちも担任教師に同調して「変なの」と後に続く。その時、ALTが突然“Don’t you have Dokudami-tya in Japan?”と子どもたちに投げかけた。担任教師が「そういえばそうかわ」と思い出し、どくだみの葉っぱを子どもに配る。そのうち生徒の一人が手を挙げて「うちのおばあちゃん、これよく飲んでるよ！匂いがすごくてやだけど」と言った。それをきっかけに、みんなで杜仲茶など健康維持に利くお茶のリストを挙げ始めた。どくだみ茶を知っていたALTもそこまで多くの健康茶が日本にあったとは思わなかったと驚いてみせながら子どもに言った。

このようなかんたんなやりとりでも十分「気づき」を子どもに与えることができる。この時、子どもにとって英語は「手段」であり、「目的」ではない。子どもたちの頭の中にかげめぐっているのは英語の構造だとか文法ではなく、「どくだみはどこで手に入るだろう」、「どんな味がするのかな」といった思いである。このように今後「総合的な学習の時間」における国際理解教育では、「気づきシラバス」を主体とした実践が課題になると言えるだろう。

2. 公開講座における実践

育英短期大学では、県民カレッジの一環として地域住民を対象とした公開講座を行っている。2002年度は「親子が楽しむコミュニケーション講座」と題し、その中で小学生を対象とした「異文化理解レッスン」を開くこととなった。期間は6月から10月（夏季休暇をはさむ）の全8回。対象は小学校中学年（3,4年生）が10人、高学年（5・6年生）が8人の計18人である。毎週土曜日午前9時30分～11時までの90分間のレッスンを実施した。シリーズ全体を通しての目標と各回のテーマは、表1・表2の通りである。

表1. 異文化理解レッスンにおける目標

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 考えながら英語をたくさん聞き、理解する② コミュニケーションに対して積極的になる③ 異文化などに触れながら自ら「気づき」を持つ |
|---|

表2. 異文化理解レッスンのテーマ

	テーマ	活動	気づきのポイント
1	英語って楽しい	緊張をほぐし、暖かい雰囲気を作るために各種ゲームを行う。自己紹介ゲームやじゃんけんゲーム等	—
2	世界の天気	各国の天候にあった装いをし、特大の世界地図上に立つ(マフラー、サングラス、コート等を用意する)	身につけるものがちがうことを通して、世界には日本と異なる気候を持つ国々があることに気づく
3	外国での買い物	おもちゃ屋、文房具屋、八百屋、果物屋、本屋をグループごとにまわり、購入する	お金の払い方のちがいに気づく
4	世界の動物	南極にいる動物をクイズ形式で当て、地図上に貼り、クレヨン等で色を塗っていく	日本にいない動物の独特な生態に気づく
5	世界旅行体験	各国の部屋を作り、部屋内に隠された文化的シンボルカードをウォークラリーで見つけていく	各国の文化的シンボルにはどのようなものがあるかを知る
6	世界の学校	ノート代わりに板に粘土を塗って書き、洗って繰り返し使っているインドの学校の例を紹介し、実際に作る	学用品の使い方などを題材として、世界の貧しい地域の学校と日本の学校とのちがいに気づく
7	世界の食べ物事情	各国の朝食を紹介する。世界人口が100人の場合、何人が満足に食べ物を得ているかを色を塗りながら考える	世界の一部の人に豊かさが集中していることに気づく
8	各国の食べ物を作ってパーティーしよう	親子で英語を聞きながら各国の食べ物を作り、それがどの国のものかを当てる	日本にはない食材や味を知る

1) レッソンの構成

レッスンの構成は大きく3つに分かれる。

- ① Warm-Up：ゲームや体を動かす活動
- ② Oral Introduction：その日のテーマに関して英語による子どもたちとのQ-A
- ③ Activity：英語を使いながら文化的な気づきを伴う体験的な活動

①のゲームはメインではなく、あくまでもその後の英語活動へ向けてのWarm-Upとして使った。緊張感をほぐし、英語に親しみやすい雰囲気を作ることを心がけた。ゲームの種類は、Simon

saysなどのゼスチャーゲームをはじめ、ビンゴゲームや、じゃんけんゲームなどである。

②のOral Introductionは英語のコミュニケーションに慣れるためにも非常に大切なところである。

子どもが理解できるような英語を話さなければならぬ。それには吟味された英語によるインプットと子どもの反応に合わせた的確なフィードバックが必要である。本レッスンでは渡辺(1995)が提唱しているMERRIER Approachを使用した。MERRIER Approach 望ましい教師の英語として次の7つの指針を挙げている。

Model or Mime:ジェスチャーを用いたり、visual aids を示しながら話す

Example: 抽象的な中身は具体例などを使って話す

Redundancy: 同じ内容を説明するのに、英語の表現を変えたり、発想を変えて話す

Repetition: 大切な内容や文は上手に繰り返しながら話す

Interaction: 教師が一方的に話すのではなく、生徒と相互交渉しながら話す

Expansion: 生徒の発話を何気なく訂正したり、付け加えて better な形に言い替えて話す

Reward: 生徒の発話を積極的にほめる

上の7点は小学生に英語を話す際にすべて重要であるが、特に Model or Mime、Example、Redundancy に注目した。理由は、小学生に考えながら英語を聞かせることと教師がつい日本語に頼りがちなところを英語で理解しやすくできることである。今回の実践ではこの MERRIER Approach を利用することで、子どもたちにわかりやすい英語に触れる機会を与えていった。

2) レッソンの実際

以下、いくつかの活動について教師と子どもの英語でのやりとりや反応を記していく。

※ () の中は MERRIER Approach の中のどれを使用したかを示している。[] は子どもの応答・反応

Warm-Up

ただゲームを行うだけでなく、説明の段階から MERRIER Approach を意識してなるべく英語を使っていった。例えば、2回目のレッスン「世界の天候」では、ビンゴゲームを通して天気の言い方に触れさせた:

始めに9つのスペースのボックスを紙に書かせ、“Please draw a box that has nine spaces.”

[...] 理解が不十分のようだったので、“Hold your pencil (Redundancy) and draw a box like this.” (Model)と言い換えて黒板に図を描いた。一マスの大きさを自然にわからせるため、“One space is big enough for the mark.” と言いながら一マスに一枚の天気カードを貼り (Example)、
“If you finish, raise your hand?” [Yes!] (Interaction) “Now, please put weather marks in the box. You can put any mark in any place.” と続け、お天気カードを適当に貼りながら “You put sunny here? It’s O.K. You put rainy here? All right.” というように示していく (Model)。縦・横・斜めの線を引きながら、“If you get three like this, you can say ‘Bingo!’.” 慣れているゲームということもあり、スムーズにゲームのやり方を理解できたようである。

Oral Introduction

英語でその日のテーマを話す。子どもは英語に慣れていないため、MERRIER Approach でわかりやすく言い換えたり、視覚教材を使って説明することが重要である。

2回目のレッスン「世界の天候」では、ちょうど梅雨の時期であったために、日本と諸外国の雨季のちがいについて MERRIER Approach を念頭にインタラクションを行った:

黒板に傘の上の部分だけをまず書く (Model)。 “What’s this?” [mountain, nikuman?] 徐々に絵を完成させていく。他の天気の色も順々に書いていく。 “What’s the weather like today?” 指名して黒板に5つの天気から今日の天気を一つ選ばせる。 “Come here. Point to a mark.” (Interaction) [雨を指差す] “That’s right. It’s rainy today. When it’s rainy, we can’t see the sun.” (Redundancy) といいながら太陽の絵を隠す。 “O.K. How about tomorrow? (カレンダーを見せ (Model), 次の日の欄を指差す) Will it be sunny? Or rainy?”

[...] “It’s rainy everyday isn’t it? Rainy, rainy, rainy” (Redundancy) と雨マークをたくさん貼っていく (Example)。“Do you have umbrella today?” [Yes]. “This is rainy season in Japan. How about in another country? Let’s go down to the south.” と言いながらあらかじめ黒板に貼ってある世界地図を指で下になぞっていく。“Look at the weather in Guam.” グアムの週間天気予報を見せる (Model)。“It’s rainy everyday. Monday, Tuesday, Wednesday. Rainy, rainy, rainy..... (Redundancy) Is it the same as Japan?” [Yes] “Now, let’s keep going down to the south. Sydney in Australia. Look. It’s sunny everyday!” シドニーの週間天気予報を見せる (Model)。 ... 後略...

6 回目のレッスン「世界の学校」では、諸外国の学校生活の一日を写真を見せながら英語で説明していった：

“Look, there are two boys. They are American. They get up at 7:00 o’clock every morning. How about you? (時計を指差しながら) What time do you get up every day, A-kun?” [6:00] “A-kun get up at 6 o’clock. (Expansion) Very good. Then, they have a breakfast. What do they eat? Do they eat rice? Or bread?” [パン] “That’s right. They put peanuts butter on bread (少し強めに言う).” (Expansion) “Well, they finished eating. Let’s go to school. How do they come to school? (徒歩で通っている小学生の写真を見せながら) by bus? [みな首を振る] by car? [首を振る] by bicycle? [首を振る] (「徒歩で」と言いたいが言えないという子どものもどかしい気持ちが高まったところで) They come to school on foot.” と言ってやる。 ... 後略...

Activity

気づきを伴う体験的な活動である。第2回目のレッスン「世界の天気」では模造紙を張り合わせた作った3×4メートルの大きな世界地図を使った。世界各地の天候と日本の天候のちがいを気づかせるのが目的である。各季節の装いをさせることで気づきを与えていった：

各国の都市にそれぞれ画用紙一枚分の大きさのお天気カード、気温カードを置いておく。春、夏、秋、冬と四季ごとの天気・天候を再現していく。“Which city are you going to? Australia, Beijing, India? Pick up a card.”と言って小学生にパスポートを渡ししながら (Redundancy)、都市名の書かれたカードを引かせる。“A-kun?” [Canada] “Oh, I see. You want to go to Canada” (Expansion) “But, look. Canada is very cold.”と言いながらぶるぶる震えるしぐさをする。(Model) “What’s the weather like in Toronto?” [snow] “That’s right. It’s snowing and 0°C. A-kun, you only wear T-shirts and jeans now. Is it O.K? Do you go to Canada with only T-shirts and jeans?” [(首を振る)] “Then, take something. We have coats, sweaters, gloves, mufflers here.” (Example) と言って、あらかじめ地図の横に用意してあった季節にまつわる服装やアイテム (春：カーディガン、花粉対策用マスク等 夏：傘、うちわ、サングラス、サンオイル、サンダル等 秋：読書用の本、スポーツのユニフォーム等 冬：コート、マフラー、手袋、ホットカイロ等) を選ばせ、身につけさせる。“What would you wear?” [coat] “O.K. Put it on and go to Canada.” なるべく天気・天候のちがいが大きい国 (日本、オーストラリア、カナダ、ブラジル、モンゴル、グアム等) を選び、小学生はそれぞれの地域の天気・気温に合った格好を考え、身につける。身につけたらそれぞれの国の上に立つ。終了後、それぞれ小学生が身につけている服装やアイテムにつ

いて英語による簡単なインタラクションを行った。ここでのねらいは小学生たちが各国の1年間の服装・身なりの変化を目の当たりにすることで、天候の特徴に気づくことである。MERRIER Approach で言えば、Example や Redundancy の視点である。

“Look at Japan. In spring he wears a jacket. And what does he have in his hand?” [umbrella] “Good. He has an umbrella with him.” (Expansion) “How about in summer? What does he wear?” [T-shirts] “Right. And?” [sunglass] “Yes. What does he have in his hand?” [uchiwa!?] “Good. And he also has umbrella.... In winter what does she wear?” [coat, muffler] “Right. And gloves. Then, take a look at Guam. What does he wear in spring?” [T-shirts and sunglasses] “Yes. How about in summer?” [T-shirts and sunglasses and umbrella] “Oh, he has an umbrella. Then how about in autumn and winter?” [T-shirts and sunglasses] “Do they have umbrellas?” [No] “How about Mongol? In winter what does he wear?” [coat, muffler, glove] “Yes. Look! It’s about minus 40 degrees! It’s very cold. But in summer it’s very hot. Does anyone have an umbrella there?” [No]

日本では四季の変化が大きく、服装もさまざまである。一方で赤道に近いある地域では一年中常に薄い服装であり、傘を持つことも多い。また一年中防寒服を着ているような地域もある。子どもたちは実際にそのような格好をしたり、季節にまつわるもの（うちわ、マフラーなど）を手にする事で、各国間の天候のちがいに気づいていった。

3. アンケート結果と考察

レッスン終了後、小学生たちに質問形式と自由記述形式によるアンケートを行った。以下は「世

界の天候」に関する結果である。

1) 質問形式によるアンケート結果と考察 (APPENDIX 参照)

興味については、お天気カード・世界の天気活動が最も高かった (77.8%, 77.8%)。一方で最初のテーマに関する英語によるインタラクションでは興味が (27%) と低い数字であった。理由としては英語で梅雨に関する説明を聞き、何らかの反応・応答をすることに対して多少のとまどいを示していたと考えられる。しかしながら理解度が 66.7% とあるように大まかに理解はしているようである。これは、本実践の目標①「考えながら英語をたくさん聞き、理解する」ことがある程度できていたと言えよう。今後も粘り強くわかりやすいインプットを与え続ける必要がある。

興味深いのは難易度・理解度・達成度において1番高い数字であったビンゴゲームが、興味においてはお天気カード、世界の天気活動に次いで3番目 (72.2%) であったことである。むしろ説明や内容がやや難しかったお天気カードや世界の天気活動の方により興味を抱いているということは、必ずしもやさしいものと興味が一致するとは限らない (下, 2001) と言えそうである。

また活動の説明 (Model) から身につけているものについてのインタラクションまで英語主体で行った世界の天気活動の達成度が 77.8% と高かったという結果は、小学生たちが積極的にコミュニケーションを行っていた (目標②) ことを示していると言える。

2) 自由記述式によるアンケート結果と考察 感想

- ① はじめからほとんど英語で話されたのでびっくりした。でも絵を使ってくれてよかった。
- ② 季節の服を着たり、物を見つけたりできて面白かった。
- ③ もう少し日本語で話してほしかった。

- ④ 最後の活動（世界の天気活動）をもっと長くやりたかった。
- ⑤ どうして国によって天気がちがうのか調べてみたい。
- ⑥ もっと天気のことについて聞いたり、話したりしたい。

わかったこと・気づいたこと

- ① 日本は住みやすいところだと思った。
- ② 日本と季節が反対の国があるというのにびっくりした。夏にサンタクロースが来るというのはなんか変な感じがする。
- ③ 傘があまりいらぬ（雨があまり降らない）国があったが、水が足りなくなったらどうするんだろう。
- ④ 1年中暑い国の方が、着る服が楽だと思った。
- ⑤ モンゴルの冬はとても寒いんだなあと思った（マイナス40度）。

質問形式のアンケートにあったように英語主体の授業だったため、多少小学生にもとまどいが見られた。しかし、「絵を使ってくれてよかった」とあるように Model、Example、Redundancy 等をうまく使ったことで、「こんなことを言っているのかな」と思えるところまではいけたと思われる。「わかったことや気づいたこと」では、小学生なりのレベルで疑問や問題意識を持ったことがうかがえた。天候のちがいが、赤道との近さや太陽との角度との関係、あるいは内陸と沿岸部などの地形的なものに関連していることを自ら百科事典やインターネットを使って調べるところまで進めば国際理解教育としては満足するレベルになると思われる。また注目する点として、「わかったこと」の③にあるように、あまり雨の降らない地域が水不足にどのように対応しているのかといった好奇心も生まれている。これはレッスン目標③のねらいである。天候から生活へと興味が広がっていくことで、横断的な調べ学習につながれば、英語活

動とともに中身の充実した国際理解教育になるだろう。

4. まとめ

ゲームだけではなく、問題意識を掘り起こす活動を設定したことで「考えて聞き、気づきを促す」機会を多少なりとも与えられたものと思う。子どもからは、自由記述にもあるように、レッスンを通して問題意識を持ったり、地域の天候の特徴に関して疑問を感じたりしている様子が見ええた。さらに英語で理解できたことの喜びは大きく、それが「コミュニケーションに積極的になる」姿勢をもたらしたと思われる。またこれまで英語で話すことを敬遠してきた部分をわかりやすい英語で具体化しながら説明することで、子どもにも量的に十分な英語に触れさせることができたと言える。参加した子どもたちの目が世界へ向けられることで視野が広がり、人間的にもより一層の成長がもたらされることを願って今回の報告を終えることとする。

参考文献

- 幸田明子 「EQ を高めることのできる児童英語教師の必要性-“楽しさ”を求める英語活動の落とし穴」 中部英語教育学会福井大会 自由研究発表資料 2002年 6月 30日 福井大学
- 下薫 「学級担任が指導する英語活動の実践例」 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 関東甲信越支部研究大会 自由研究発表資料 2001年 3月 4日 青山学院大学
- 文部科学省 『小学校英語活動実践の手引き』2001. pp.5- 6 東京：開隆堂
- 渡辺時夫 「The Input Hypothesis (インプット理論): MERRIER Approach のすすめ」田崎清忠(編)『現代英語教授法総覧』1995. pp. 181-196 東京：大修館。
- Ellis, R. The study of second language acquisition. 1994. Oxford: Oxford University Press.
- Krashen, S. The input hypothesis. 1985. London: Longman.

(2002年 9月30日 受理)

APPENDIX 1. アンケートの結果

(1). 興味

回答\活動	梅雨のお話	ビンゴゲーム	お天気カードゲーム	世界の天気を知ろう
たのしかった	27.8%	72.2%	77.8%	77.8%
ふつう	66.7%	27.8%	16.7%	22.2%
つまらなかった	5.6%	0%	5.6%	0%

(2). 難易度

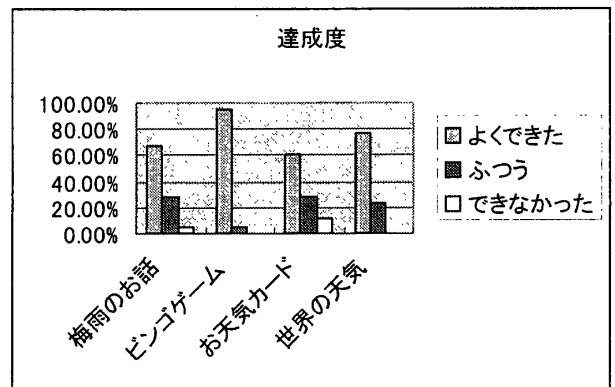
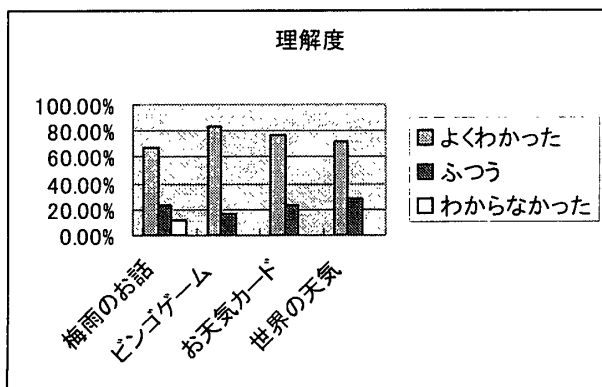
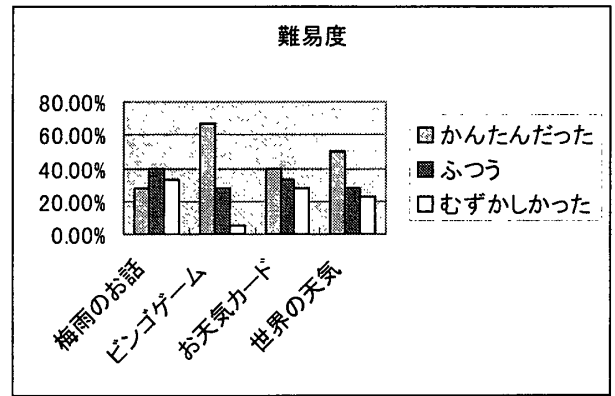
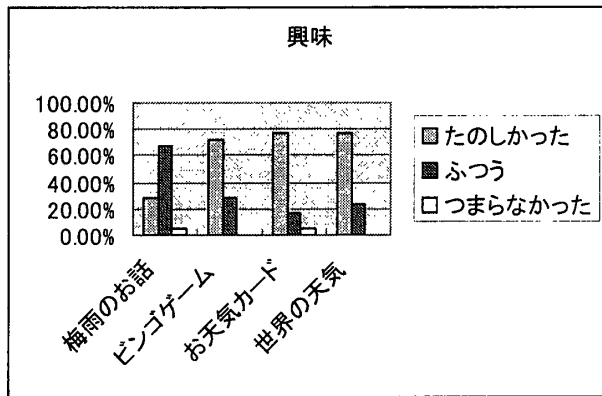
回答\活動	梅雨のお話	ビンゴゲーム	お天気カードゲーム	世界の天気を知ろう
かんたんだった	27.8%	66.7%	38.9%	50%
ふつう	38.9%	27.8%	33.3%	27.8%
むずかしかった	33.3%	5.6%	27.8%	22.2%

(3). 理解度

回答\活動	梅雨のお話	ビンゴゲーム	お天気カードゲーム	世界の天気を知ろう
よくわかった	66.7%	83.3%	77.8%	72.2%
ふつう	22.2%	16.7%	22.2%	27.8%
わからなかった	11.1%	0%	0%	0%

(4). 達成度

回答\活動	梅雨のお話	ビンゴゲーム	お天気カードゲーム	世界の天気を知ろう
よくできた	66.7%	94.4%	61.1%	77.8%
ふつう	27.8%	5.6%	27.8%	22.2%
できなかった	5.6%	0%	11.1%	0%



APPENDIX 2. レッソンの実際 (第2回「世界の天候」)

活動/目的	MERRIER Approach によるやりとり ※ [] は小学生の反応	備考
<p>天気に関する話題のインタラクション/現在が梅雨の季節であることを認識させると同時に、梅雨でない地域もあることを認識させる</p>	<p>黒板に傘の上の部分だけをまず書く(Model)。What's this? [mountain, nikuman?] 徐々に絵を完成させていく。他の天気の話も順々に書いていく。What's the weather like today? 指名して黒板に5つの天気から今日の天気を一つ選ばせる。Come here. Point to a mark. (Interaction) That's right. [雨を指差す] It's rainy today. When it's rainy, we can't see the sun. (Redundancy) といいつながら太陽の絵を隠す。O.K. How about tomorrow? (カレンダーを見せ(Model)、次の日の欄を指差す) Will it be sunny? Or rainy? [...] It's rainy everyday isn't it? Rainy, rainy, rainy (Redundancy)と雨マークをたくさん貼っていく (Example)。Do you have umbrella today? [Yes]. This is rainy season in Japan. How about in another country? Let's go down to the south. といいつながらあらかじめ黒板に貼ってある世界地図を指で下になぞっていく。Look at the weather in Guam. グアムの週間天気予報を見せる(Model)。It's rainy everyday. Monday, Tuesday, Wednesday. Rainy, rainy, rainy..... (Redundancy) Is it the same as Japan? [Yes] Now, let's keep going down to the south. Sydney in Australia. Look. It's sunny everyday! シドニーの週間天気予報を見せる(Model)。</p>	<p>小学生たちは今梅雨の時期であることを認識する</p> <p>地域によって天候が似ているところとまったくちがうところがあると気づかせる。</p>
<p>ビンゴゲーム</p>	<p>Please draw a box that has nine spaces. Hold your pencil (Redundancy) and draw a box like this. (Model) One space is big enough for the mark. といいつながら一つのスペースに一枚の天気カードを貼り(Example)、大きさをどのくらい取ればよいか潜在的にわからせる。If you finish, raise your hand? (Interaction) Now, please put weather marks in the box. You can put any mark in any place お天気カードをいろんなところへ貼りながら You put sunny here? It's O.K. You put rainy here? All right. といいつように示していく (Model)。縦のライン、横のライン、斜めのラインを引きながら、If you get three like this, you can say "Bingo!"</p>	<p>考えさせながらボックスを描かせる</p>
<p>日本の四季の天候を知ろう/英語を聞いて天気図を作り、四季の特徴を推測する</p>	<p>日本地図のプリントを一人4枚、天気カードを数枚渡す。天気概要を英語で聞かせ、小学生たちはそれぞれの地域・都市にお天気カードを置く。4枚終わったら、天気図を見てどれがどの季節か考えて当てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) It will be sunny in all area. Hokkaido, Kanto, Kansai, Kyushu, it's sunny. There is a strong wind from north. 2) It's sunny in Tohoku area, but Tyugoku area is rainy because of a big typhoon. 3) It will be sunny in the morning in Kanto area. But, the weather will change easily. It will be cloudy in the afternoon. 4) It's rainy in most area. It doesn't stop for a long days. 	
<p>世界の天気ゲーム/服装の視点から次の世界の天候の特徴を考える (Redundancy)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本は四季がはっきりしている ② 熱帯地方は一年中高温で雨季・乾季がある ③ 乾燥帯は気温の変化は大きく降水量が少ない 	<p>Which city are you going to? Australia, Beijin, India? Pick up a card. パスポートを渡して(Redundancy)、都市名の書かれたカードを引かせる。A-kun? [Canada] Oh, I see. You want to go to Canada (Expansion) But, look. Canada is very cold. ぶるぶる震えるしぐさをする。What's the weather like in Toronto? [snow] That's right. It's snowing and 0°C. A-kun, you only wear T-shirts and jeans now. Is it O.K.? Can you go to Canada with only T-shirts and jeans? [(首を振る)] Then, take something. We have coats, sweaters, gloves, mufflers here. (Example) What would you wear? [coat] O.K. Put it on and go to Canada. O.K., let's play the game. 以降 Model を示しながら You get a card first. Look at the name of the city. Then, say to your group member, "What's the weather like in Moscow?" Who are A-kun's group? Raise your hand. (Interaction) O.K. Look at the weather on Moscow and say, "It's sunny. It's very cold." A-kun will listen and think. Then, put on a coat or items and go to Moscow within one minute. Now, let's begin. 春・夏・秋・冬の4パターン行う</p> <p>Look at Japan. In spring he wears a jacket. And what does he have in his hand? [umbrella] Good. He has an umbrella with him. (Expansion) How about in summer? What does he wear? [T-shirts] Right. And? [sunglass] Yes. What does he have in his hand? [uchiwa!]? Good. He also has umbrella..... In winter what does she wear? [coat, muffler] Right. And gloves.</p> <p>Then, take a look at Guam. What does he wear in spring? [T-shirts and sunglasses] Yes. How about in summer? [T-shirts and sunglasses and umbrella] Oh, he has an umbrella. Then how about in autumn and winter? [T-shirts and sunglasses] Do they have umbrellas? [No] How about Mongol? In winter what does he wear? [coat, muffler, glove] Yes. Look! It's about minus 40 degrees! It's very cold. But in summer it's very hot. Does anyone have an umbrella there? [No]</p>	<p>服装のちがいがから世界の天候のちがいを潜在的に気づかせるようにする</p>

Cross-Cultural Understanding Lesson for Primary School Students to Encourage Their “Noticing” through English Language

Seiji Chida

Abstract

This paper is a report on the practice of cross-cultural understanding lessons in a community college class. In 2002, “the Period of Integrated Study” was established in Japanese public primary schools. A lot of schools started out with English activities as part of their international understanding education program. While it is expected to be a good opportunity for children at the same time, there exists a problem. The fact that the content of the curriculum has not been outlined leads to confusion amongst the teachers. As a result, in most cases, the curriculum seems to end in a medley of transient songs and games. There needs to be some reconsideration regarding the whole curriculum in the light of international understanding.

An international understanding program was put into practice in a community college class at Ikuei Junior College during the summer of 2002. The aim of the program was to provide the children with the opportunity to notice the differences in mutual cultures. In this paper, the choice of topics, which prompted the children to notice the difference in cultures, is dealt with. Also, teacher talk, which encourages the children’s critical thinking, examination of curriculum contents and their responses to the lesson, is examined.